（様式３）

事　業　実　施　計　画　書

申請機関名

|  |
| --- |
| 1. 現在の自施設の体制
 |
| ※都道府県及びがんの医療圏における自施設の役割、入院・外来のがん患者数、現在のアピアランスケアに関する医療従事者の確保状況（当該医療従事者のアピアランスケア（アピアランスケアに関する相談支援・情報提供を含む。）の経験を含む。）、アピアランスケアに関する情報提供及び相談支援の実績等を含めて記載すること。※現在、相談窓口が設置されている場合は、窓口の設置場所や、対応可能な時間、院内の連携体制等についても必ず記載すること。※現在、多職種によるチームの設置や多職種で関わる体制がある場合は、構成・対応する職種や人数等についても記載すること。※現在、他の医療機関からの紹介を受け付けていたり、地域の理美容関連サービス等の社会資源の整理・活用していたりするなど、都道府県内での連携体制の構築に取り組んでいる場合には、その内容も記載すること。 |
| 1. 実施計画
 |
| 1. アピアランスケアに関する相談支援及び情報提供の窓口の設置や、多職種が連携してアピアランスケアに関する相談支援及び情報提供を実施する体制の構築に関する計画

※事業開始後の更なる整備の見込みについて記載すること。また、現在整備されていないものについては、モデル事業開始までに確保できる体制の具体的な内容（①の※に記載する内容等）及び確保予定時期についても記載すること。 |
| 1. アピアランスケアに関する院内の医療従事者に対する教育に関する計画
 |
| 1. 都道府県内におけるアピアランスケアに関する課題の抽出及び対応に関する計画

※都道府県や自施設と連携している地域の医療機関とともに、都道府県内におけるアピアランスケアに関する課題の抽出ならびに課題への対応について検討する場や方法を具体的に記載すること。 |
| 1. 都道府県内のアピアランスケアに関する相談支援及び情報提供の体制を構築し、その周知を行う等により、他の医療機関で治療を受けているがん患者等からの相談にも対応できる体制整備に関する計画

　　※地域の理美容関連サービス等の社会資源の整理方法及びその活用計画についても記載すること。 |
| オ．本事業によって得られる効果及びアピアランスケアの取組みの継続性※事業終了後も取組を継続するための工夫や計画について必ず記載すること。 |
| カ．その他、必要と考えられるアピアランス支援体制の整備計画 |